

第六十五回 同明会能

令和二年二月二十二日(土)午後一時始

於京都観世会館

金春流 老松 高橋 忍

谷口 正壽 前川 雪
曾和 鼓堂 杉 信太郎

井上 貴覚
辻井 八郎
山井 綱雄
金春 飛翔

独調 八島

豊嶋 晃嗣 河村 凜太郎

独調 蟬丸

長島 茂 唐錦 崇玄

宝生流 忠度 辰巳 満次郎

井林 久登 森田 保美
林 大和

辰巳 孝弥
金井 雄資
澤田 宏司
辰巳 大二郎

休憩

素囃子 遊舞之楽

渡部 諭 前川 光範
竹村 英敏 左鴻 泰弘

演目解説

老松(おいまつ)
霊夢を見て太宰府天満宮を訪れた者の前に老松の神霊が現れ、舞を舞います。舞は「真之序之舞」といい、年老いた神の舞です。老体の神の莊重さ、神さびた世界を表現するため、深い力を内包しつつ、とてもスローテンポな演奏になります。

一調・独調(いつちよう・どくちよう)
謡の聞き所を演奏します。鼓一人に対して謡も一人で臨むため、非常に緊張する演奏方式です。一調は技巧を凝らした複雑な手組を打ち、独調は通常の手組を打ちます。演者の技量と鼓の醍醐味を堪能できる演目です。

忠度(ただのり)
「行き暮れて木の下かげを宿とせば花や今宵の主ならまし」と詠んだ平忠度。文武両道に優れ、戦の中でも風流を忘れない、平家の公達の最期の有り様を見せます。修羅と優美が交錯する名曲です。

遊舞ノ楽(ゆうぶのがく)
菊慈童の特殊演出で、黄鐘調と呼ばれる常の笛の音階から、盤渉調と呼ばれる高い音階へと変わり、菊が咲き匂う谷川に、慈童が戯れる様を強調する演出となります。今回は素囃子ですので【盤渉楽】そのもののテンポのよい美しい旋律をお楽しみください。

喜多流 三輪

香川 靖嗣

河村 大前川 光長
吉阪 一郎 杉 市和

塩津 圭介
金子 敬一郎
長島 茂
大島 輝久

一調 善知鳥

金井 雄資
竹村 英雄

休憩

観世流 木賊

河村 和重

井林 清一
林 吉兵衛
森田 保美

深野 貴彦
味方 玄
浦田 保親
味方 團

金剛流 飛雲

金剛 龍謹

小林 努
有松 遼一

石井 保彦
林 大輝
井上 敬介
左鴻 泰弘

宇高 徳成
豊嶋 晃嗣
種田 道一
宇高 竜成

観世流 金札

味方 玄

谷口 正壽
古田 知英
前川 光範
杉 信太郎

河村 和晃
味方 團
浦田 保親
深野 貴彦

終了予定 五時過

三輪(みわ)
三輪の里に住む高僧のもとに現れた三輪明神は、三輪の里に伝わる神婚説話や天の岩戸神話を語り、神楽を舞います。しかし夜が明けると、すべては夢、神は消えていくのでした。深い杉木立のなか、神域へと引き込まれていくような曲です。【神楽】では小鼓がいざなうように「ブ」「ポ」「ブ」「ポ」と一定のリズムで打ち始め、観客を神秘的な世界へ導きます。

木賊(とくさ)
行方知れずとなった我が子を思い、舞を舞う老人。酔狂し「親の心子知らず」と嘆きながらも、芸事が好きだった我が子への思いを募らせつつ舞います。老人である故、舞の途中で休憩を取るように極端にゆったりとした演奏になり、シテの動きも止まります。哀切の心、老いと狂いを表現した難曲です。

飛雲(ひうん)
山伏一行が木曾路にて鬼を調伏する話です。本来ならワキを出さないのが舞離子ですが、今回はワキの山伏を登場させます。山伏が鬼を調伏する【祈り】では観世流太鼓の特殊な手組も見所のひとつです。

金札(きんさつ)
社殿造営の為、伏見を訪れた桓武天皇の勅使のもとへ「国土を護るため伏見に住むと誓おう」と書かれた、金の御札が降ってきました。やがて天津太玉神も降臨し、手にしている弓矢で悪魔を払い、天下泰平を壽ぎ、金札を納めて姿を消したのでした。神の威光を象徴するかのように、力強く演奏します。実際に矢を放つ所作が大変珍しい、祝言曲です。